

No.229

2019年  
7月号

# さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

## 展示のご案内

展示期間 7月25日(木)まで

★メイン展示

### 「夏のはじまり」

今年の梅雨入りは、記録的に遅くなりましたが、梅雨が明ければ夏本番です。そこで今回の展示は「夏のはじまり」と題して、

- ・アウトドアを楽しもう
- ・七夕
- ・夏の手作り

という3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

「山登り&キャンプアウトドア旅の道具BOOK」  
 「たなばたのねがいごと」「七夕姫は知っている」  
 「人気店に教わる極上かき氷」ほか

★サブ展示

### 「エクササイズ」

筋トレや体形維持はもちろん、シニアのためのカラダづくりの本まで、多数展示しています。ぜひお越しください。

●サブ展示図書(抜粋)

「ゆるスクワットの教科書」「ゼロトレ」  
 「シニアの筋トレ・ロトレ・骨体操」ほか

★サブ展示

### 「しげちゃん一座」

宝くじの社会貢献広報事業として女優室井滋さんと絵本作家長谷川義史さんたちが出演する「宝くじ文化公演 絵本ライブショーしげちゃん一座」が開催されるのに合わせて、図書館でも室井滋さんと長谷川義史さんの絵本を展示しています。ぜひ、ご覧ください。



#### 宝くじ文化公演

#### 「絵本ライブショーしげちゃん一座」

日時 8月17日(土)14時～

場所 宿毛市総合社会福祉センター

チケット好評発売中(全席指定)

#### ★読書講座 『読み聞かせ講座』

絵本の読み聞かせに興味のある方、ボランティアをしてみたい方…、いっしょに学んでみませんか？絵本の魅力についても語りあってみませんか？初めての方も大歓迎です。お気軽にご参加ください。事前申込は不要です。

日時：7月20日(土) 13時30分～15時

場所：宿毛文教センター 2階 視聴覚室

講師：秋本美津さん

参加費：無料

# 読んでみませんか？

## -新着図書のご案内-

(一般)

### 女はいつも四十雀

林真理子 著  
光文社

40代で子どもを産み育て、仕事もして、海外旅行も楽しんでいた林さん。

40代はモテ期。女としての黄金期だったというのである。

歳をとるのが怖いのではなく、楽しみでいたいと思わせてくれるエッセイ集。

後悔しないための心得が詰まった一冊となっています。

(岡村)

(児童)

### 自由への道

池田まき子 文  
丹地洋子 絵  
学研プラス

アメリカの新しい二十ドル紙幣に黒人女性では初めて採用となった、ハリエット・タブマンという歴史的人物をご存じですか？

奴隷制度が当たり前の時代、奴隷は人間とみなされず、子どもであっても家畜のように扱われる日々の中、差別や苦難に生涯をかけて勇敢に挑んだ奴隷女性の物語。人種差別の歴史と背景を持ちながら、今を生きる私たちに生きる力を与えてくれる希望溢れる一冊です。

(樫田)

(一般)

### ハンドメイドの宝石せっけんの教科書

木下和美 著  
エクスナレッジ

薬品も使わず、手軽にできて、作ったその日から使える、手作りせっけん。

作る楽しみと見る楽しみ、そして使う楽しみ。手を洗うのをいやがる子どもたちも手にとってしまいそうなせっけん。

毎日使うせっけんだからこそ、安全性はもちろん、見た目にも楽しい宝石せっけんを作ってみませんか？

(尾崎)

(児童)

### よくわかる情報通信

高作義明 著  
PHP研究所

私たちの生活に欠かせない情報通信。パソコンやスマートフォンがあれば好きな時に多くの情報を得ることができます。では、その情報通信の技術はどのように発達してきたのでしょうか？

絵や文字で書いた情報を足で伝えていた時代から電気通信の誕生までを順を追って紹介。また、情報通信の技術のしくみや将来の可能性も解説しています。インターネットなど通信環境が身近になった今こそ、親子で読んでほしい児童書です。

(山口)

### 「3. 11から学べることは…」

山下量子

ひょんなことから、大手テレビ局でドキュメンタリーの演出・撮影を50年近くされていた方とお会いすることができた。眞部猪一さんという方で、ネット検索するとすぐにヒットするような人である。

周りに映像をやっている人が少ない環境の中で、独学で映像の勉強をしている私には、そんな業界のプロとお会いできるなんて夢のようでとても嬉しかった。

さまざまなやりとりをしているうちに、眞部さんが取材した番組を見せていただくようになった。その中でひときわ私の心に残ったのは3. 11に関するドキュメンタリーだった。

「わすれない～三つの家族の肖像～」と題したその映像の中に収められていたのは、地震、そして津波の後、妻の姿を探し続ける被災者の様子。息子の遺体は発見された。しかし妻の姿はそこには無かった。残された子どもたちは、電気も水道もガスもない中、母の帰りをけなげに待っている。しかし、無念にも、その後、妻の遺体は発見される…。

ある会社の社長も取材されていた。大金を投資して最新鋭の設備で築きあげたばかりの海産物加工の工場は、津波でわやくちやにされた。その工場内には、出荷直前であった魚介類がおよそ4,000トンもそのままになっている。抱えたのは、20億円にのぼる被害。しかし、数千人が働いていた石巻漁港、そして市場は壊滅した状態で再開のめどは立たない…。

津波は家も人も町も流し、残された人の仕事も流した。それでも、生き残った人々は悲しみを抱えながらも町を復興し、仕事を再開しようと前を向いている。私はそんな映像を見ながらこらえ切れず涙が出てきた。

南海トラフ地震を控えるこの地域に住む私はどこかで3. 11のことを直視できずにいた。だから地震直後の当時から今まで、私はいろんなメディアの情報から目を背けていたのだ。

けれども8年たった今、今更ながらそこで起こった現実と向かい合うことになった。未だ2,500人以上が行方不明となっているあの痛ましい日と。

3. 11の10日後、急遽、眞部さんは若手ディレクターとともに、宮城県石巻市に向かい、この様子を撮影したのだという。当初はその過酷さに、呆然と現場に立ち尽したという。そして「この現実間違いなく起きた事実として受け止めるしかない」と自分に言い聞かせた

そうだ。そして不眠不休で撮影を続け、その1ヶ月後には、原発事故による放射能被災地である福島県葛尾村に向かっている。

当時、各放送局は、スタッフに放射能被曝が及ぶことを恐れ、原発30キロ圏内の取材に制限をかけていたという。それでも眞部さんは一人でカメラを持ち込み葛尾村の撮影を始めたのだという。「60歳を越えていたから被曝も関係ない、そう思った」と。

その後、限定的にカメラマンを同行しての取材が可能になったものの、本人・家族の同意書を提出の上、放射線測定器を身に付け、被ばく線量を毎日報告するという条件だったという。

その時の映像「わすれない～原発と牛飼い～」では、葛尾村での牛飼いの人たちのやるせない状況が赤裸々に映されている。

原発から20キロ圏内は警戒区域となり、人間は立ち退きを命じられた。育ててきた乳牛たちを、飼育することがもうできないため、食肉業者に渡すしかない。涙しながら、長年ともに暮らした牛たちの最期を見守る人々…。それでも、警戒区域の中で放置され餓死していく多くの牛よりもマシだという。自ら防護服を着て、牛を安楽死させる和牛繁殖農家もいた。

「ここで起きていることは『不条理』という言葉でしか表せない、そう思いました。」と当時を振り返り眞部さんは語る。

あの頃、現地の情報は、ただメディアを通してしか手に入れることができなかった。それは、彼のように被曝することも顧みず身体をその地に運んで、カメラを回した人々がいるからこそなのだと、思い知った。

そのおかげで、私たちは家にいながら、何のリスクも無いまま、何が今、日本で起こっているのか、どれだけ恐ろしいかを知ることができたのである。映像の裏で動いていた彼らの勇氣と行動に私は敬意を感じずにはいられなかった。そしてそのことに気付かなかった自分の無知さを恥じた。

なすすべもない地震や災害の中、私たちはどうするべきなのか。映像は過去の出来事を鮮明に伝えながらも、今の私に問いかける。

では今、それがここで起こったら私はどうする？何が出来る？

南海トラフ地震が来た際に、少しでも被害を減らすために、今できることをもう一度見直そう、眞部さんとの出会いでそう思った。

## ～新着図書のご紹介～

### 一般図書



- 0 「グーグルが消える日」 ジョージ・ギルダー  
 1 「漢字で読み解く日本の神様」 山口謠司  
 2 「知られざる弥生ライフ」 譽田亜紀子  
 3 「合格する子どものすごい伸ばし方」 松本亘正  
 4 「皮膚はすごい」 傳田光洋  
 5 「ゴミ清掃員の日常」 滝沢秀一  
 6 「若者力」 日本農業新聞取材班  
 7 「手塚治虫とトキワ荘」 中川右介  
 8 「文芸オタクの私が教えるバズる文章教室」  
 三宅香帆  
 9 「ひと」 小野寺史宜  
 9 「1分音読『万葉集』」 齋藤孝  
 9 「黄昏出張所」 中村ふみ  
 9 「ノーサイド・ゲーム」 池井戸潤  
 9 「ハッピーアワーは終わらない」 東川篤哉  
 9 「ある作家の夕刻」  
 スコット・フィッツジェラルド  
 9 「平安ガールフレンズ」 酒井順子  
 9 「笑え、シャイロック」 中山七里  
 9 「美しき愚かものたちのタブロー」 原田マハ  
 9 「炎天夢」 今野敏  
 9 「サリエルの命題」 楡周平  
 9 「ぼくを忘れないで」 ネイサン・ファイラー  
 9 「女の偏差値」 林真理子  
 9 「とむらい屋颯太」 梶よう子  
 9 「愛情漂流」 辻仁成

※左側の数字は図書の分類を表しています。  
 0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学  
 5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

### 児童図書



- 「ずるいいきもの図鑑」 今泉忠明  
 「本屋さんのルビねこ」 野中柊  
 「お絵かき禁止の国」 長谷川まりる  
 「あららのはたけ」 村中李衣  
 「職員室の日曜日 -図書魔女ちゃんとバクちゃん-」  
 村上しいこ  
 「最後のドラゴン」 ガレット・ワイヤー  
 「よろしくパンダ広告社」 間部香代  
 「火星のカレー -宇宙人たちのひみつ-」 斉藤洋  
 「子ぶたのトリュフ」 ヘレン・ピータース  
 「世界の外あそび学じてん」 こどもくらぶ  
 「よくわかる情報通信 -歴史から通信のしくみ、IoT  
 まで-」 高作義明

### 絵本



- 「なまけものパーティー」 齋藤楨  
 「ほんとにぜったいあけちゃダメッ!!!」  
 アンディ・リー  
 「字のないはがき」 向田邦子  
 「ころべばいいのに」 ヨシタケシンスケ  
 「へんしんバス」 あきやまただし  
 「タコやん」 富安陽子  
 「ぞうさんうんちしょうてんがい」 ねじめ正一  
 「夏とおとうとと」 ふくだいわお  
 「ジュース」 三木卓

★このほかにもたくさんの図書が入っております。  
 図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、  
 そちらもぜひご覧ください。

### 7月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

### 8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00      は休館日  
 ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>  
 メールアドレス [tosyo@city.sukumo.lg.jp](mailto:tosyo@city.sukumo.lg.jp)